

## 「天地を結ぶ歌」

主任司祭 吉池好高

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」  
(ルカ2・14) クリスマスの夜、ベツレヘムの野に響いた天使たちの歌です。  
この天使たちの歌は、「グロリア イン エクチェルシス デオ」というラテン語の歌詞で、クリスマスの聖歌に取り入れられ、そのなじみ深いメロディーはクリスマスソングとなって、教会の中だけではなく、町にも流れています。こうして、あの最初のクリスマスの夜、天から響いた天使たちの歌声は、二千年の時を越えて、ベツレヘムの満天の星空の下の静かさとは対極にある、私たちの東京の人工の光に彩られた雑踏の上にも響いています。

クリスマス、ベツレヘムの厩にお生まれになった神の子イエスは、天使たちのあの歌声を地上にもたらすためにお生まれになったのです。天使たちは、神の子が人となってこの地上にお生まれになったことをたたえて、そのことを人々に告げるために、あのグロリアの歌を歌ったのです。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」  
神の子であるお方の、この地上における人としての誕生によって、私たちのこの地上と、そこに繰り広げられる私たちの地上の営みの全ては、天のいと高きところ、そこにおられる天の御父に結ばれたのです。天のいと高きところにおける神の栄光と、地上に生きるものたちの間における平和、その結び目に神の子はお生まれになり、それを地上の隅々にまでもたらすために、その生涯を捧げられるのです。

天のいと高きところにおける神の栄光と地に住む者たちの間の平和を結ぶ条件は、地に住むものたちの生き方が神の御心に適うものとなることです。ベツレヘムの馬ぶねを囲んだマリアとヨセフのように、天使のお告げを受けて、厩に急いだ羊飼いたちのように。